

ネコとネズミのいっしょのくらし

グリム Grimm

矢崎源九郎訳

青空文庫

ネコがネズミと知りあいになりました。ネコはネズミにむかつて、これからきみをうんとかわいがって、なかよくしてあげるよ、と、さかんにうまいことをいいたてました。それで、とうとうネズミは、ネコとおなじうちにすんで、いつしよにくらすことを承^し知^{ようち}してしまいました。

「だが、わたしたちは、冬になつてもいいように、用意^{ようい}をしておかなかちやならないよ。さもないと、ひもじいめにあうからね。」と、ネコがいました。

「ネズミくん、きみはそこらじゆう、むやみに歩きまわることはできないだろう。ネズミとりにもひっかかるとこまるものねえ

「このしんせつな忠告ちゆうこくどおりにして、ふたりはヘットりよう（料理りにつかう牛の脂肪しぼう）のはいった小さなつぼをひとつ買いこみました。でも、そのつぼをどこへおいたものか、どうもふたりにはよくわかりません。それで、長いこと考えぬいたあげくに、とうとう、ネコがこういいました。

「こいつをしまっておくのにいい場所ばしょといたら、まず教きよう会かいのほかにはないだろうよ。あそこなら、まさかぬすみだすやつもいまいからね。祭壇さいだんの下において、入り用なときがくるまでは、手をつけないでおくことにしよう。」

これで、つぼはだれにもぬすまれる心配しんぱいはなくなりました。

ところが、いくらもたたないうちに、ネコはヘットがなめたくてしようがなくなりました。そこで、ネズミにむかつていいました。

「きみに話したいことがあるんだがね、ネズミくん。じつは、わたしはおばさんから名づけ親おやになってくれたのまれているんだよ。おばさんがね、白と茶色ちやいろのぶちのむすこを一ぴき生んだもんだから、その子の洗せん礼れいにたちあつてくれたっていうのさ。だから、きようはひとつ、わたしをでかけさせて、おまえさんひとりで、うちのことをやっていてくれないかね。」

「いいですよ、いいですよ。」

と、ネズミはこたえました。

「えんりよなくいつてらっしやい。あなたがなにかおいしいもの

でもめしあがるときには、あたしのことも思いだしてくださいな。産婦さんぷさんののむ、あまい赤あかブドウ酒しゆのようなものなら、あたしもひとしずくぐらい、いただきたいですよ。」

ところがこれは、ぜんぶでたらめなんです。だって、ネコにはおばさんなんてひとりもないんですからね。ですから、名づけ親にたのまれたなんて、とんでもない話なのです。

ネコは、そのまままっすぐ教きょう会かいへいって、あのつぼのそこ

ろへしのびこむと、さっそくピチャ、ピチャなめはじめました。

そしてまもなく、ヘットのどろんとした上うわ皮かわを、きれいなめ

てしまいました。それから、町の家いえの屋根やねの上を散歩さんぽして、

あたりのようすをながめてから、こんどは日なたに長ながとねそ

べりました。そして、さつきのヘットのつぼのことを思いだしては、そのたびに、ひげをこすつていました。

日がくれてから、ネコはやつとうちへかえつてきました。

「おや、おかえりになったのね。きようは、さぞかしたのしかつたでしょう。」

と、ネズミがいました。

「うん、うまくいったよ。」

と、ネコがこたえました。

「赤ちゃんにはどんな名まえがつけられましたの。」

と、ネズミがたずねました。

「^{かわ}皮なめさ。」

と、ネコは、そっけなくこたえました。

「皮なめですつて。」

と、ネズミは思わず大きな声でいいました。

「それはまた、きみのような、かわった名まえですのね。あなたがこのおうちでは、そういう名まえがよくつけられるんですの。」

「こんなのは、なんでもないさ。きみの名^なづけ子^ごのへパンくずどろぼう^〱なんてのよりは、わるかあないぜ。」

と、ネコはいいました。

それからまもなく、ネコはまたまた、ヘットがなめたくてたまらなくなりました。そこで、ネコはネズミにいいました。

「ほんとに、きみにはすまないけど、もういっぺん、うちのこと

をひとりでやってもらわなきやならない。じつは、また名^なづけ親^{おや}にたのまれちまったんだよ。なにしろ、こんどの赤んぼうの首^{くび}のまわりにや白い輪^わがついてるってことだから、どうしてもことわるわけにやいかないのさ。」

心のすなおなネズミは、すぐに承^{しょう}知^ちしました。ところがネコのほうは、町の石べいのうしろをとおって、教^{きょう}会^{かい}のなかへしのびこみました。そして、あのヘットのつぼを半^{はん}分^{ぶん}ほどもたいらげてしまったのです。

「まったく、このうまさは、ひとりで食べてみなくちやわからなくて。」

と、ネコはいいました。そして、きょうはうまいことをやったも

んだと、すっかり満足まんぞくしていました。やがて、ネコがうちにかえつてきますと、ネズミがたずねました。

「こんどの赤ちゃんは、なんて名まえをつけてもらいましたの。」

「へ半分はんぶん分ぶんぺろり。」

と、ネコはこたえました。

「半分ぺろりですつて。なにをおっしゃるのよ。そんな名まえは、あたしまだきいたこともありませんわ。だいいち、そんな名まえ、じんめいぼ人名簿じんめいぼにだつてのつちやいけませんよ。」

ネコは、まもなく、またおいしいごちそうが食べたくなつて、しきりに口のなかにつばきがたまつてきました。

「いいことは三度あるつていうがね。」

と、ネコはネズミに話しました。

「じつは、また名^なづけ親^{おや}になつてくれつていわれているんだよ。

こんどの子はまつ黒でね、足だけが白いんだよ。そのほかは、からだじゅうどこにも白い毛^けなんて一本もはえていないのさ。こんなのは、二、三年に一ぴきぐらいしか生まれないんだよ。だから、どうかわたしをもういちどいかしておくれ。」

「皮^{かわ}なめだの、半^{はん}分^{ぶん}分^{ぶん}ペろりだのつて、ずいぶんおかしな名まえなのね。考えてみると、なんだかへんだわ。」

と、ネズミはこたえました。

「きみは、そのネズミ色のあらつぽい毛^{うわぎ}の上着^{うわぎ}をきこんで、長い毛をおさげにして、いつもうちのなかにばかりひっこんでいる。」

おまけに、年がら年じゆう、くよくよしている。昼まそとへでないもんだから、そんなふうになつちまうんだね。」

と、ネコがいました。

ネズミは、ネコのるすのあいだにうちのなかをきれいにかたづけて、きちんとしておきました。ところが、くいしんぼうのネコは、つぼのなかのヘットをすつかりたいらげてしまいました。

「みんなたいらげちまうと、やつと安心あんしんできるもんだ。」

ネコはこうひとりごとをいって、夜よがふけてから、ようやく、大満腹だいまんぷくでうちにかえつてきました。ネズミは、さつそく、三ばんめの赤んぼうにつけられた名まえをきいてみました。

「こんどの名まえも、きみには気にいらないだろうよ。」

と、ネコがいました。

「こんどのは、へみんなペロリ」というのさ。」

「みんなペロリですって。」

と、ネズミは大声をあげました。

「そんな名まえが印いんさつ刷すりされてるのは、まだ見たこともないわ。

みんなペロリ。いったい、なんのことだろう。」

ネズミは頭をふりましたが、からだをまるくして、そのままねてしまいました。

それからは、もうだれも、ネコに名なづけ親おやになつてくれとたのむこともありませんでした。しかし、やがて冬がちかづいてきて、そとに食べものがなんにも見つからなくなりました。すると、ネ

ズミはたくわえのことを思いだして、いいました。

「ねえ、ネコさん、ふたりでしまっておいたヘットのつぼのところへいきましようよ。きつとおいしいわよ。」

「よしきた。」

と、ネコはこたえました。

「きつと、きみのそのうすつぺらな舌したを、窓まどからだしたときのよ
うな味あじがするだろうぜ。」

そこで、ふたりはでかけました。むこうへついてみますと、た
しかに、つぼはもとのままの場所ばしょにおいてありました。ところが、
その中身なかみがからっぽです。

「まあ。」

と、ネズミがいました。

「いまこそ、あたしにも、よつくわかったわ。すっかりわけがのみこめてよ。あなたは、たいへんなお友だちだったのね。なにもかもきれいに食べちまってさ、名づけ親おやになるなんていっちゃあ食べて、はじめは上うわかわ皮をなめ、それから半はんぶん分ぺろりとやって、そのつぎには……」

「だまらないか。」

と、ネコがどなりつけました。

「もうひとこといってみろ、おまえをくつちまうぞ。」

「みんなぺろり」と、あわれなネズミが、舌の上まででかかっていたことばを、口にするかしないうちに、ネコはネズミめがけて

ひととびにおどりかかりました。そして、ネズミをひつつかむが
はやいか、ぐうつとのみこんでしまったのです。

いいですか、世よのなかってこんなものなんですよ。

青空文庫情報

底本：「グリム童話集（一）」偕成社文庫、偕成社

1980（昭和55）年6月1刷

2009（平成21）年6月49刷

入力：sogo

校正：チエコ

2019年8月30日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテイアの皆さんです。

ネコとネズミのいっしょのくらし

グリム Grimm

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫
著者 矢崎源九郎訳
URL <http://www.aozora.gr.jp/>
E-Mail info@aozora.gr.jp
作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU
URL <http://aozora.xisang.top/>
BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>